



他大に負けない結束力で日本一を目指す
秋季関東学生卓球リーグ戦優勝！

本学の女子卓球部は創部50年の伝統ある部活動です。これまで、アジアチャンピオンや日本チャンピオンといった選手を輩出し、現在は関東学生卓球連盟1部に所属しています。9月1日～13日に行われた秋季関東学生卓球リーグ戦では、全勝という結果を残し、10度目の優勝に花を添えました。これは、16年ぶり10度目の優勝、東京富士大学に改組されてからは初めての優勝です。今回は卓球部を率いる主将の後藤奈津美さん(4年)にお話を伺いました。

■人間として成長できた4年間

後藤さんが卓球部に入学してまず驚いたのは試合中の選手への声援の力強さでした。ベンチにいるチームメイトのみならず、観客席にいるOG、その他多くの支援者全員が一丸となって他大学を圧倒するほどの声援を送る。印象に残っているのは西村卓二監督の「試合に出ない人の方が大事なんだ!」という言葉でした。後藤さんは試合会場でその言葉の意味を知ることになります。選手として舞台上立つときには大きな声援が他ならぬパワーになること、だからこそチームメイトが舞台上立っているときには誰よりも大きな声援を送ることが大切なのだ。本学女子卓球部の強みを感じ取った瞬間でした。

そして4年生になった今年、後藤さんは主将に指名されました。最初は不安で一杯でしたが、後藤さんがまず取り組んだのは、学年に関係なく自由に発言できるミーティングを実践すること。「部員全員が意見を言い、部員全員がそれに耳を傾ける質の高いミーティングを行えたことが今回の優勝に繋がっているのならば嬉しい」と後藤さん。

最後に、これまでを振り返り後藤さんはこう語ります。「毎日欠かさず練習場に足を運んで選手一人一人に目を配り指導をして下さる西村監督、土日でも練習に駆け付けて下さるOGの方々、心底語り合えるチームメイト、その他大勢の支援者の方がいるからこそ私たちは強くなれるのだと思います。部活動を通じて技術だけでなく思いやる心やコミュニケーションの大切さを学びました。人間として成長できた4年間でした」。主将としての後藤さんの自信に満ちあふれる眼が印象的でした。



手塚キャラクター発想支援カード
ゲームビジネス研究塾(山川悟教授)

■漫画の神様とコラボレーション

「手塚キャラクター発想支援カード」が、本学のゲームビジネス研究塾と(株)手塚プロダクション様によって開発され、この度完成いたしました。

ゲームビジネス研究塾は、東京富士大学が掲げる「実務IQ」を高めようと活動している、四つの研究塾のうちの一つです。指導に当たったのは山川悟教授(マーケティング論・創造性開発)。手塚プロは、マンガの神様・手塚治虫氏が数々の漫画を執筆した高田馬場の地域活性化に大変積極的です。高田馬場駅から本学へと向かうとき最初に目にする早稲田口高架下の手塚キャラクターの壁画は、ご覧になった方もいるのではないのでしょうか。JR高田馬場駅の発着チャイムが「鉄腕アトム」のメロディーであることは、ご存じの方も多いと思います。

本カードは、手塚プロから開発許諾を頂き、西武信用金庫様より平成28年度地域産業応援資金(地域企業と産学連携する大学を支援する制度)の贈呈を受け、開発に至りました。

■ゲーム感覚でアイデアを出してみよう!

このカードは発想支援ツールとして、めくって出てきたキャラクターとそこに書かれたキーワードをヒントに何かアイデアを出す、ブレインストーミング(あるテーマをめぐり各自が思いつくままにアイデアを出し合う会議)などに活用することができます。例えば「火の鳥」のキーワードは『神の視点で考える』。他にも「ユニコ」「ブラックジャック」など、お馴染みの手塚キャラクターが目白押しです。キャラクターカードを使って楽しく発想の練習ができるように工夫されています。

本カードのデザインは、ゲームビジネス塾生の近藤ゆみさん(経営学部3年)が担当しました。近藤さんから一言。

「半年間やってきたことがついに形となり、とても感謝しています。手塚プロダクションとの著作権交渉や、意見をすり合わせる作業は貴重な経験でした。締め切りがある中で良いものを作るのは大変でしたが、責任のある仕事をまかされたことによって、自分が成長したことを実感できました。ようやく完成したカードで、多くの皆さんに遊んでほしいと思っています。」